

(様式1)

○普及に移す品種

[タイトル] 淡黄色の八重・ユリ咲きチューリップ新品種「砺波育成131号」(仮称)の育成

[要約] 花色が淡黄色で八重のユリ咲きチューリップ新品種「砺波育成131号」を育成した。本品種は、淡黄色の花で珍しい花型である八重のユリ咲きである。花茎が強く、1株から2～3花の枝咲きも多い。晩生品種としての花壇植えや2～3月出しの切り花生産に適する。

[キーワード] チューリップ、八重咲き、ユリ咲き、花壇植え、切り花生産

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・園芸研究所・花き課

[連絡先] 電話 0763-32-2259

[背景・ねらい]

消費者ニーズの多様化に伴い、チューリップにおいてこれまでにない花型、花色が求められているため、新規の花型である八重のユリ咲きチューリップを育成する。

[成果の内容・特徴]

1 育成経過

1996年に花色が赤紫色のユリ咲き品種「星の願」を種子親とし、花色が藤紫色の八重咲き品種「Double Price」を花粉親とした品種間交雑を行い、得られた有胚種子783粒を実生養成した。2002年に花色が淡黄色で八重のユリ咲き系統「96-405-13」を選抜して球根増殖し、2009年から特性検定試験を開始した。2011年に「砺波育成131号」の系統名を付与し、2012年まで特性検定を行った結果、実用性が高いと判定された。

2 特性の概要

(1) 花型は極めて珍しい八重のユリ咲きで、花色は淡黄色である(図1)。露地での開花期は4月下旬で、対照品種の「Monte Calro」より8日、「Flashback」より3日遅い(表1)。莖長、草丈は約30cmで、花茎は強く、1株から2～3花の枝咲きが多い(図1)。草姿の揃いが良く、花壇植えに適する。

(2) 球根収穫期は6月中旬で、「Monte Calro」、「Flashback」とほぼ同時期である(表2)。主球の肥大性は「中」、分球性は「Monte Calro」、「Flashback」より大きく「大」である(表2)。

(3) 早期促成栽培での開花率は低いが、2～3月出しの作型では安定した切り花栽培ができる(表3)。

(4) 球根腐敗病に対する抵抗性は「強」である(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1 晩生品種としての花壇植え及び2～3月出し促成切り花栽培に適する。

2 新たな品種名を決めて品種登録出願予定である。

3 花色が淡黄色であるため、モザイク病に罹病した場合、病徴が見にくいので、花型の乱れや葉のモザイク斑の有無を目安に厳重な抜き取りを行う。

4 微斑モザイク及び条斑病に対する抵抗性については試験中である。

(様式1)

[具体的データ]



図1 「砺波育成131号」の花型及び草姿

表1 開花時の地上部特性(試験年の平均)

系統・品種名	花色	開花日 (月/日)	観賞期間 (日)	花弁長 (cm)	花弁数 (枚)	花梗径 (mm)	茎長 (cm)	草丈 (cm)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	花の数**** (花/株)
砺波育成131号*	淡黄	4/28	11.0	7.6	12.3	6.0	27.5	29.1	19.7	5.3	2.0
Monte Calro**	黄	4/20	12.5	6.5	29.3	5.6	16.5	21.2	16.3	4.1	1.0
Flashback***	黄	4/25	12.0	8.6	6.0	5.7	36.0	31.7	21.5	3.0	1.0

*2010,2011,2012年 **2009,2012年 ***2009,2010,2011年 ****2012年 供試球サイズ:11cm

表2 球根収量性(100株当たり 試験年の平均)

系統・品種名	掘取り日	サイズ別球数					総球数 (球)	総球重 (kg)	ほ場裂皮率 (%)
		≥12cm	11cm	10cm	9~7cm	6cm≥			
砺波育成131号*	6月15日	13	39	37	151	310	550	4.24	29.8
Monte Calro**	6月15日	8	29	29	81	291	438	3.04	3.2
Flashback***	6月17日	20	34	37	100	107	298	3.76	39.1

*2010,2011,2012年 **2009,2012年 ***2009,2010,2011年 供試球サイズ:9cm

表3 促成適応性検定(試験年の平均)

系統・品種名	植付け日 (月/日)	開花日 (月/日)	開花率 (%)	花弁長 (cm)	花弁数	茎長 (cm)	葉長 (cm)	切り花重 (g)	花持ち日数 (日)	花の数 (花/株)
砺波育成131号*	11/24	1/8	41.7	5.2	12.0	21.8	15.2	18.1	—	1.1 最大2花 枝咲き株率6%
砺波育成131号**	12/26	2/16	100	7.0	13.1	26.9	13.5	26.8	7.4	2.4 最大4花 枝咲き株率85%
Monte Carlo***	11/10	12/28	91.7	5.6	13.3	27.0	17.8	21.9	9.0	1.0
Monte Carlo****	12/26	2/20	100	6.6	25.9	25.2	14.2	25.4	7.9	1.0
Flashback*****	10/28	12/18	49.4	7.2	6.0	30.4	17.1	22.7	9.4	1.0

*2010,2011年 **2012年 ***2009年 ****2012年 *****2009,2010,2011年 供試球サイズ:11cm

表4 球根腐敗病抵抗性検定*

系統・品種名	年次	発病株率(%)	評価**
砺波育成131号	2010	5.7	
	2011	14.7	◎
	2012	4.3	
Flashback	2007	48.6	
	2008	65.7	△

*孢子懸濁液浸漬処理後に箱植えして検定

**抵抗性の評価:極弱×<△<○<◎<●極強

[その他]

研究課題名: チューリップ新品種育成・開発

予算区分: 県単、受託(実用技術開発事業)

研究期間: 2012年度(1996~2012年度)

研究担当者: 浦嶋 修、辻 俊明、木津 美作絵¹、飯村 成美²、今井 徹³、池川 誠司⁴、
西村 麻実、井上 徹彦、天橋 崇⁵、石黒 泰⁶

(1:新川農林振興センター、2:広域普及指導センター、

3:高岡農林振興センター、4:砺波農林振興センター、5:元農林水産総合技術センター園芸研究所、6:現岐阜大学)